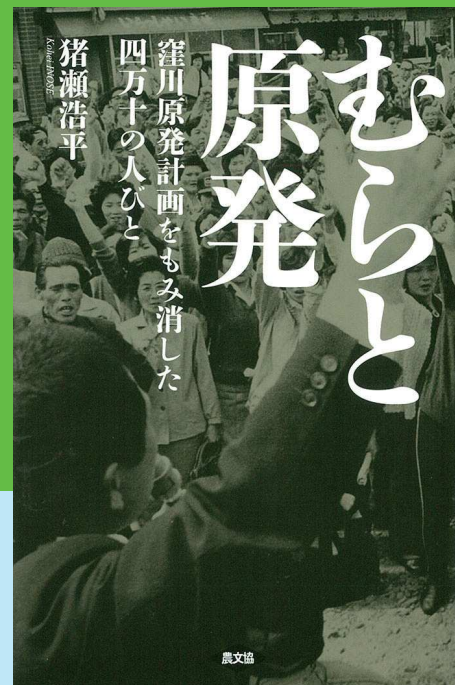


むらと原発 窪川原発計画をもみ消した 四万十の人びと

猪瀬浩平 著

四六判 276頁 定価2000円+税 ISBN:978-4-540-15109-5



3・11以降、「原発計画を止めた町」として全国から再注目を集めた高知県窪川町。第一次産業を中心とした地域づくりに取り組んできた町に、国策共同体が突如建設計画を持ち込むが、町長解職、住民投票条例可決といった8年間の「もみあい」の末、町議会は「原発問題論議の終結宣言」を可決するが、住民投票はあえて実施されなかった。本書は原発騒動の渦中のみでなく、騒動のはるか以前から、さまざまな問題に直面し、格闘し続け、騒動終焉後も格闘してきた農林漁家の人びとの歴史と「多数決を最善としない」むらの民主主義を語る。

■猪瀬浩平 明治学院大学教養教育センター准教授。2003年東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻(文化人類学)修士課程修了。2003年～2006年 日本学術振興会特別研究員(DC1)。2006年 東京大学21世紀COE 共生のための国際哲学交流センター 特任研究員。2007年 東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻博士課程 単位取得満期退学。見沼田んぼをフィールドに、「環境福祉」や「社会的排除/包摂」を理論的に探求しながら、現代社会における「ボランティアの政治学」の構築を目指している。一方で、「障害」、特に「自閉症」概念の歴史的構築過程について、科学技術社会論の立場から研究。「耕しながら考えること」を常に心がけている。【専門分野】ボランティア学、文化人類学、環境社会学、科学技術社会論。見沼・風の学校+見沼田んぼ福祉農園事務局長。

【目次】

序章 ムラ、むら、邑

- 1、問いの所在
- 2、原発事故後の窪川にて:ムラに流着すること、ムラに土着すること
- 3、原発推進 - 反対の二分法を越えていく論理
- 4、「邑(むら)」と言う視座:原発騒動以前への視点
- 5、この本の構成

第一章 窪川原発騒動の顛末

- 1、原発騒動の始まり
- 2、窪川町長、藤戸進
- 3、窪川原発反対運動
- 4、町長リコールから町長選挙へ
- 5、勢力伯仲の中で

第二章 窪川のむらざとにて:人々の生業

- 1、伊方:ミカンと原発から考える
- 2、戦後の農政と、窪川農業の展開
- 3、原発反対運動に参加した農民たちの生業戦略
- 4、窪川農村開発整備協議会
- 5、小括

第三章 語りと余韻:島岡幹夫と邑の断片

- 1、島岡の語り
- 2、原発騒動まで

- 3、コバルト照射と母の死
- 4、谷脇溢水の合流
- 5、志和
- 6、谷淵隆明と方舟の会
- 7、島岡の引力と、その余韻

第四章 邑の象徴:野坂静雄とその精神の遍歴

- 1、四万十川と地域史的個人としての野坂静雄
- 2、タービン技術者として
- 3、窪川町執行部時代の野坂
- 4、窪川農協組合長就任まで
- 5、ふるさと会会長野坂静雄
- 6、野坂の死

第五章 原発計画をもみ合う、原発計画をもみ消す

- 1、「むら」ということ、「邑」ということ
- 2、土地基盤整備事業:国策共同体に抗するむら
- 3、もみ合う邑:住民投票条例の制定と温存する知恵
- 4、全会一致ということ:原発終結宣言

終章 結びとして

- 1、鶴津:沈黙する核心
- 2、呼びさまされる記憶:戦後開拓
- 3、人びとの中にある歴史:地域史—世界史—個人史

あとがき

『むらと原発 窪川原発計画をもみ消した四万十の人びと』 冊	
●本体2000円+税 ISBN978-4-540-15109-5	
氏名(団体名)	ご住所(〒 -)
(ご担当者様)	
TEL - - FAX - - E-mail @	

農文協 注文専用 F A X 03-3585-3668

送料 1回400円

http://www.ruralnet.or.jp/

〒107-8668東京都港区赤坂7-6-1 TEL03-3585-1142 FAX03-3585-3668